

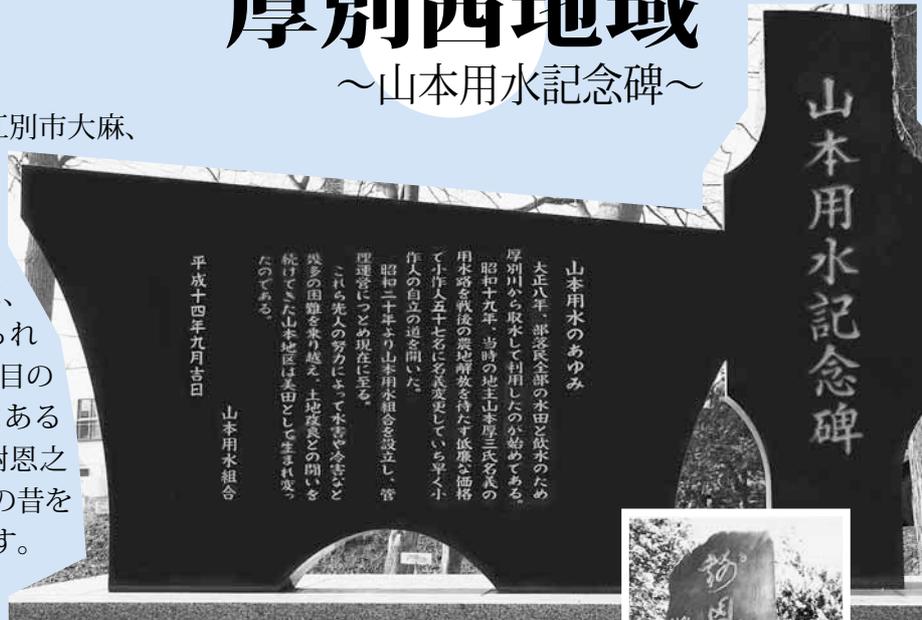
あつこ今昔

「今」と「昔」を重ね合わせると、どんな「風景」が見えますか？

厚別西地域

～山本用水記念碑～

今 厚別西地域は、江別市大麻、白石区、JR 函館本線に囲まれた厚別区最大の広さをもつ地域です。山本地区では、今でも畑や水田が見られます。厚別西4条3丁目の山本稻荷神社の境内にある「山本用水記念碑」「謝恩之碑」からは、山本地区の昔を読み取ることができます。



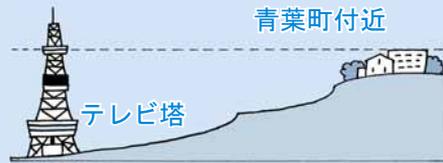
昔 山本地区の開墾は、明治42年小樽の山本久右衛門やまもときゆうえもんが私財を投じて農場を開いたことに始まります。一面泥炭地で造田に大変苦労したため、排水溝の造成に尽くしました。これが発展し、今の山本川こうぞうになりました。子の山本厚三も、父の意志を引き継ぎ、道路や排水路を整備し、広大な田畑の開墾を成し遂げました。また、昭和19年には戦後の農地解放を待たず、低価格で農地を小作人に解放しました。山本親子に対する地域住民の感謝の思いは、「本田ほんでん」と呼ばれていた地名を「山本」と改称したことや、これらの「碑」に込められています。

山本厚三の功績をたたえ建立された「謝恩之碑」



昭和25年当時の山本地区の水田の様子（現在の厚別高校付近）

今 青葉地域は、札幌市により昭和37年から43年にかけて大規模な宅地造成が進められました。青葉町4丁目から7丁目の「青葉緑地」には、地形や自然の樹木を生かした公園や散策路が設けられ、住民の生活に潤いを与えています。緑地の四季を彩るミズバショウ、クリ、ミズナラ、ホオノキ、そして春にはカッコウ、ヒバリなどの野鳥が鳴くという環境にあります。



青葉地域は標高がほぼ50～100メートル。札幌市中央区大通西1丁目のテレビ塔の展望台とほぼ同じ高さであるといわれています。

昔 青葉地域は野幌丘陵の一部で、旧国鉄千歳線上野幌駅（現在の厚別南公園）から北側に1.23平方キロメートル広がっています。この地域は、4万年前ころの支笏湖・恵庭岳、数千年前の樽前山が噴火したときに飛んできた支笏軽石流等が堆積したり、隆起したり、野津幌川の浸食作用によって形成されました。起伏にとんだ青葉緑地から、その面影が感じられます。団地開発までの様子について、下野幌小学校（現在の青葉小学校）発行の郷土読本『青葉』（37頁）には、右のように書かれています。

下野幌だん地のおかしなようす

下野幌から厚別へ出るには、今のサンピアザふきんを通らなければなりませんでしたが、いちめんのぬま地で、通れませんでしたので、わり板をしいてようやく通れるようにしたそうです。青葉町のあたりは、なだらかな丘になっていて、畑には、リンゴやジャガイモ、やさいなどの作物がつけられ、ひくい土地には、水田もありました。

（昭和54年・札幌市立下野幌小学校発行）